

■男だぜ、ラインメン—夏に鍛える⑤

5本の指—釧路公立大

7月20日、釧路市芦野の釧路公立大のグラウンド。午後3時から、釧路公立大アメフト部の練習が始まった。気温19.2度、時折小雨が混じるあいにくのコンディションだが、選手22人のうち、けが人などを除く18人が防具を身につけてグラウンドに集合。山内翔平主将（4年、兵庫・三田祥雲館高）がハドルで「さあ、いこか」と檄を飛ばして、ウォームアップから開始した。

この日の練習の中心となったのが1時間10分のパート別練習。ライン組の8人はシフトの確認から始まり、パスポテクションの足の運び、ヘルメットをかぶってランブロックも。2人1組での押し合いでは「足幅を広く」「ナイスガッツ」と周りから声も飛んだ。DLのラッシュを付けたパスポテクションでは「ショルダーが傾くと、最短ルートをラッシュされるぞ」とオフenseライン（OL）にハッパがかかった。最後に片面ずつのスクリメージでパート別練習を終えた。

昨年、創部34年目で初めて1部に昇格した釧路公立大。トーナメントで競った秋の道学生選手権は、1回戦で帯広畜産大に敗れたものの、ランプレーで先制点を奪うなど18-35と健闘。5、6位を決める順位戦では5TDパスなどで室蘭工業大に63-0と大勝した。攻撃を支えたOLの面々も大きな自信を得たシーズンになった。そして迎える1部2年目。OLの卒業生は1人だけで、10人が昨年の経験に上積みして初経験の6校総当たりのリーグ戦に臨む。

178センチ、90キロでOLリーダーの半谷大樹（4年、福島・ふたば未来学園高）は「DLの動きに応じて臨機応変にブロックする」と釧路公立大OLの神髄を教えてくれた。昨年のエースQBだった柴田雅大（当時4年）が母校の滋賀・虎姫高から持ち込んだノウハウの一つだ。「DLに体格で劣る場合も、しっかり対応できる」と半谷リーダー。あの手この手のブロック術が1部で通用することは、昨年の2試合が証明した。

173センチ、88キロで、もう一人のOLリーダーの児玉宗己（3年、秋田・花輪高）は「セットしてからの急な変更がおもしろい」と釧路公立大ブロック術を歓迎する。「去年はQBサックをさせないようにするので精一杯だったが、今年はスタートの速さに磨きをかけて」と大暴れをもくろむ。

半谷リーダーが「釧路公立大のOLは5本の指」と例えた。「1本でも欠けると機能しなくなる。大事なのは5人のチーム力。だから、シフトしてからのコミュニケーションが大切なんです」と胸を張った。



パスプロテクションの動きを確認する釧路公立大のオフンスラインたち